



- 国際シンポジウム「ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像」の開催報告 (2019年1月12日)
- ブリヂストンと連携「未来起点プロジェクト」発足
- 2018年度「学生自主企画プロジェクト」成果報告会と表彰式の開催報告
- 2018年度「学生海外派遣」プログラム「学生海外調査研究」実施報告
- 2018年度「国際学会派遣プログラム」実施報告
- 2018年度「若手女性研究者支援」実施報告
- 'Women's Leadership Education for Global Peace' (「平和のための女性リーダーシップ教育」) の報告 (2018年10月25日)
- 2018年度後期授業を終えて (IGL関連)
- 子育てサロンの報告 (2018年10月24日)
- 第13回国際日本学コンソーシアムの開催報告 (2018年12月10日・11日)
- トポスとしての研究所 (所長あいさつ)

国際シンポジウム「ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像」の開催報告 (2019年1月12日)

2019年1月12日(土)に、グローバル女性リーダー育成研究機構 グローバルリーダーシップ研究所(IGL)・ジェンダー研究所(IGS)が主催する**国際シンポジウム「ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像」**が開催され、約170名が参加しました。はじめに、猪崎弥生理事・副学長・グローバル女性リーダー育成研究機構長より開会挨拶と本シンポジウムの趣旨説明がありました。

第1部の基調講演は、小林誠 本学教授・グローバルリーダーシップ研究所長が司会を務め、「ジェンダー平等と女性のリーダーシップ」をテーマに、梨花女子大学 金恵淑 (キム ヘスク) 総長、ノルウェー科学技術大学 アンネ・ボルグ副学長、本学室伏きみ子学長の3名が各大学での、それぞれの社会におけるジェンダー視点に基づいた女性リーダー育成の取り組みと**今後の大学の課題**を紹介しました。

第2部のパネルディスカッションは、「グローバル女性リーダー:多様性とネットワーク」をテーマに、韓国、ベトナム、日本のそれぞれの社会において必要とされるジェンダー視点に基づいた女性リーダー像について、成蕊娘 (ソン イェラン) 梨花女子大学校リーダーシップ開発院特任教授、キム・アイン・ズオン ベトナム女性学院副学長、石井クンツ昌子 本学教授・ジェンダー研究所長、小林誠教授がそれぞれプレゼンテーションを行った後、趙成南 (チョ ソンナム) 梨花女子大学校教授・リーダーシップ開発院長よりまとめとコメントがありました。その後、パネルディスカッション司会の**大木直子 本学グローバルリーダーシップ研究所特任講師**より「リーダーシップに『ジェンダー』の違い、影響はあるのか」、「ネッ

トワーク構築の現状と課題にはどのようなものがあるのか」などの論点が提示され、パネリスト全員で活発な議論を行い、金総長とボルグ副学長からもコメントや女性リーダーへの励ましの言葉が述べられました。質疑応答では、多くの参加者から質問が寄せられ、さらに議論を掘り下げることができ、大変充実したシンポジウムとなりました。

文責: 大木 直子(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像
International Symposium "Women's Global Leadership from Gender Perspectives"

2019年1月12日(土) 13:30~17:00
お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室

第1部 学長講演 13:30~14:40
「ジェンダー平等と女性のリーダーシップ」
Gender Equality and Women's Leadership

第2部 パネルディスカッション 14:55~17:00
「グローバル女性リーダー:多様性とネットワーク」
Women's Global Leadership: Diversity and Network

2019年1月12日(土) 13:30~17:00
お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室

主催: お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
IGL (Institute for Global Leadership) / IGS (Institute for Gender Studies)

ブリヂストンと連携「未来起点プロジェクト」発足

株式会社ブリヂストン(以下ブリヂストン)と本学は、**高校生・大学生・大学院生を対象**として次世代の女性リーダーの育成を支援する「**未来起点プロジェクト**」を発足します。

本プロジェクトは、2017年1月にブリヂストンと本学が締結した、包括協定の内容を具体化するもので、次世代の女性リーダー育成のための産学連携プロジェクトになります。

2019年度より高校生、学部生、大学院生がともに学ぶ**社会連携講座「未来起点ゼミ」「未来起点研究」**を開講します。学生はこの講座の中で、多様なステークホルダーとの対話を通じて未来の社会を予測し、企業や自治体、教育機関が果たすべき役割について提言します。未来起点で考え、行動する学生のリーダーシップを育てるとともに、次世代の女性リーダーとなる**学生の視点から考えた未来予測**を企業や大学の活動に取り入れてもらうことを目的としています。

ブリヂストンと関わりの深い自動車業界は100年に一度といわれる大変革期を迎えており、産業の姿はこれまでにないスピードと規模で変化しています。企業が**持続的な成長**を続け、**社会価値を提供**し続けるためには、グローバルで多様な経営人材の育成・活用が求められています。ブリヂストンと本学は、多様性の一側面である女性活躍推進の観点から、女性リーダー育成に関する取り組みを進めていきます。



『未来』の主役は『学生』

本学は、開学以来、社会をリードする女性人材を数多く輩出してきました。しかし、未だ**日本における女性の活躍状況**は世界的に見て発展途上の段階にあります。本プロジェクトを通して、「女性リーダー育成」の取り組みを更に広げ、企業との連携によってより実践的で多様な価値観を持つ女性リーダーを育成し、日本の女性活躍推進に貢献していきます。

ニュースリリース:

<http://www.ocha.ac.jp/news/20190116.html>

文責・本プロジェクト担当:

佐野 潤子(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)、増谷 真紀(同 客員准教授)

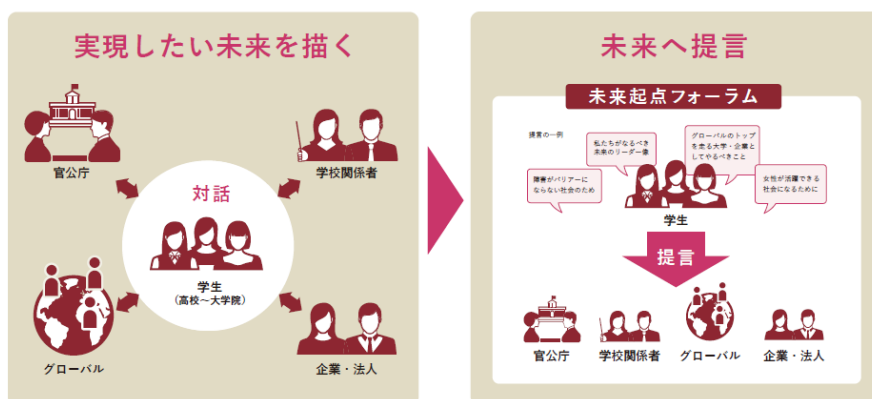
「未来起点プロジェクト」について

「未来起点プロジェクト」は、本学に開講する**社会連携講座「未来起点ゼミ」「未来起点研究」**を軸に推進します。本学とブリヂストンが互いのリソースを活用し、意見を提示・交換して授業内容を検討する点に特徴があります。

「未来起点ゼミ」「未来起点研究」

1. 目的: ①**未来起点で自ら考え**、実行する学生のリーダーシップを育成 ②**社会に対して、次世代の視点から考えた未来予測を共有**
2. 開講期間: **2019年4月～2020年3月**(次年度以降も継続実施)
3. 受講対象: **本学の大学生、大学院生、及び附属高等学校の高校生**
4. 定員: **20名**

未来起点プロジェクト  × 



2018年度「学生自主企画プロジェクト」成果報告会と表彰式の開催報告

当研究所では、各年度に1回、学生の主体的なリーダーシップを養成するため、**学生たちが主催する学内活動**（講演会、ワークショップ等）の企画を募り、採択グループに支援を与える「学生自主企画プロジェクト」を実施しています。**7回目**となる今年度は学生間のコミュニケーションの形成およびキャンパスの活性化を目的とした個性ある**4グループの企画**が採択され、2018年12月7日に成果報告会が行われました。

本プロジェクトの活動を通じ、主催した学生からは「**様々な学年・分野の人と交流**することができた。運営側の仲が深まった」「運営をする中で人に楽しんでもらう喜びを感じることができ、**専攻に対しての理解**が深まった」「本講座を通じて、参加者だけでなく、主催メンバーにも大きな学びがあった」「**悩みや経験をわからあえるネットワーク**の存在それ自身が、孤立しがちな非常勤講師にとって**エンパワリング**であることが確認できた」といった感想が寄せられました。

今年度は優れた企画を立案し、これを遂行したチームに優秀賞を贈ることになりました。**優秀賞**には「**非常勤講師をする院生のためのエンパワーメントとネットワーキング・プロジェクト**」と「**台湾のかわいい香り袋『香包』を作ろう！**」の企画が選ばれ、2018年12月18日に表彰式が行われました。

文責：小林 敦子（グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント）



成果報告会（2018年12月7日）



表彰式（2018年12月18日）

2018年度「学生自主企画プロジェクト」採択チーム一覧

活動名	メンバー	活動内容
非常勤講師をする院生のためのエンパワーメントとネットワーキング・プロジェクト	本山 央子（代表）、林 亜美、バラニャク 平田ズザンナ、カキン・オクサナ	<ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップ開催 <ul style="list-style-type: none"> ・労働契約について学ぶ（8/2） ・伝わる講義とは（10/20） ・非常勤講師と研究のバランス（11/22） ■ネットワーキング <ul style="list-style-type: none"> ・メールリスト、Facebook グループ
台湾のかわいい香り袋「香包」を作ろう！	鈴木 志保（代表）、岸部 理穂、陳 莉瑩、大澤 徹郎	<ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップ開催（6/26） <ul style="list-style-type: none"> ・座学（①中華圏の祝日②世界の香り文化③香包の中身について④香道の香料を用いた香り遊び） ・工作（DIYキットを使った香包づくり）
自己尊重感を高めるワークショップ	林 美子（代表）、安藤 真由美、大類 由貴、濱田 真里、下川 自子	<ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップ開催（10月～11月） <ul style="list-style-type: none"> 元本学教員であり日本にフェミニストカウンセリングを紹介した河野貴代美氏をお招きし「自己尊重感を高めるワークショップ」という題で、お茶の水女子大生を対象とし全5回のワークショップを開催。
はんだラボ～LEDジェルキャンドルを作ろう！～	小島 珠貴（代表）、勝泉 夏生、椎尾研究室有志メンバー Rijowarts	<ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップ開催（11/21） <ul style="list-style-type: none"> 理工系技術に興味を持ってもらうことを目的に、リードスイッチや傾きセンサー、はんだごてを用いてLEDジェルキャンドルを作成。

2018年度「学生海外派遣」プログラム「学生海外調査研究」実施報告

当研究所「学生海外調査研究」事業では、2010年から、**海外における文献や資料の調査、フィールド・ワーク、新しい研究手法の修得**などを対象に、本学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程に在籍する学生を支援しています。

2018年度は**4名の学生を派遣**しました。日本では入手が困難な一次資料の調査・収集、インタビュー調査・視察調査など、**博士論文執筆につながる貴重な調査**を各人が現地にて行いました。

派遣学生からは、「インタビューから、調査目的の理解に結び付く数多くの証言を得ることができたことは大きな成果であった」「現地の女性研究者、アーキストと共働したことは、大きな刺激となった」「日本では閲覧の難しかった先行研究資料を多数複写し検討することができた点で、実りある調査となった」「研究対象作品の一次資料の全体像について十分な知見が得られた」等の、充実した調査研究だったことが窺われる感想がありました。また、今後の新たな課題を見出す機会ともなったようです。

各採択者による報告書は、当研究所ホームページ内 (<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/leadership/groupingmenu/training/d005721.html>) に公開しています。

文責：西澤 千典（グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント）



光橋さん調査先



倉脇さん調査先



佐藤さん調査先

2018年度「学生海外調査研究」採択者一覧

採択者	主な調査先	研究内容
光橋 翠 (人間発達科学専攻)	ストックホルム、ヨーテボリ (スウェーデン)	スウェーデンの幼児教育プログラム「森のムッレ教室」の理念及び実践に関する現地調査
倉脇 雅子 (比較社会文化学専攻)	ラーヘン (スイス)、ミュンヘン、フランクフルト (ドイツ)	19世紀後期における音楽流通についてーヨアヒム・ラフを通してー
木村 優希 (比較社会文化学専攻)	ブダペスト (ハンガリー)	バルトークによるスケッチ・草稿及び校訂楽譜の調査研究～1926年のピアノ作品を中心に～
佐藤 真知子 (比較社会文化学専攻)	パリ (フランス)、ニューヨーク (アメリカ)	ニジンスキーとその振付作品に関する一次資料の収集

2018年度「国際学会派遣プログラム」実施報告

このプログラムは、国際的に活躍する女性研究者の育成および、グローバル女性リーダー育成研究機構の重点研究領域（リーダーシップ、男女共同参画、ジェンダー、日本学、国際協力等）の研究成果の発信を目的として、本学のポスドク研究者、大学院博士後期課程学生の**国際学会での発表**に対して支援を行うものです。

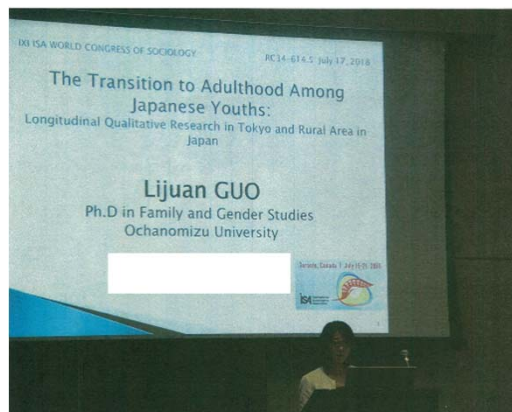
2018年4月18日に「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムとの合同説明会を実施し、前期募集（4月締切）と追加募集（9月締切）合わせて10件の応募がありました。

採択者4名の発表タイトルや学会名などの一覧と発表の様子は下記の通りです。

採択者からは「パネル発表者の一人として参加するという、大変貴重な機会を頂くことができました」「国際的な視野から、**博士課程修了後の研究方向**や書籍の出版について貴重なアドバイスをもらうことができました」「自身の研究に対して不安と焦燥感を覚える中、**海外の議論に直接触れ**、足元に光が射した気がしました」「本学会での経験を糧に、今後も継続的に国際学会での報

告を行いたいです」といった本プログラムの効果を実感するようなコメントが寄せられました。

文責：大木 直子（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



郭さんの発表の様子

2018年度「国際学会派遣プログラム」採択者、発表タイトル等一覧

派遣者名	学会名・分科会名・場所	発表タイトル・発表形式
郭 麗娟 （基幹研究院研究員人間発達科学専攻）	XIX ISA World Congress of Sociology RC34 Sociology of Youth	The Transition to Adulthood Among Japanese Youth: Longitudinal Qualitative Research in Tokyo and Rural Area in Japan（口頭発表） （2018/7/14-21）
久島 桃代 （グローバルリーダーシップ研究所特別研究員）	《学会名等》The 2018 International Geographical Union Regional Conference 《委員会/セッション名》Sustainability of Rural Systems /Rural Migration and Community Change	Embodied memories and places: Female migrant narratives about karamushi in Showamura, Fukushima prefecture（口頭発表） （2018/8/5-11）
大持 ほのか （博士後期課程比較社会文化学専攻）	《学会名等》The World Congress of Philosophy 2018 《セッション名》The Depth of Human Becoming and Transformation: Views from Japanese Philosophy and Philosophy of Education	An Ethical Approach to Hisamatsu Shin'ichi: The Way of Tea as an Example（口頭発表）（2018/8/12-21）
相川 頌子 （博士後期課程ジェンダー学際研究専攻）	2018 National Council on Family Relations Annual Conference	The Impact of Working Mothers' Internet Use on Effectiveness of Parenting and Grandparents-Mothers' Relationship: A Japan-U.S.A. Comparison（ポスター発表） （2018/11/6-11）

2018年度「若手女性研究者支援」実施報告

若手女性研究者の研究力向上支援の一環として、シンポジウムや研究集会等を積極的に主催・運営する機会を増やす為に、**グローバルリーダーシップ研究所特別研究員（呼称：みがかずば研究員）**を対象に学内公募を実施し、今年度は2つの企画に対して費用面での支援を行った。

一つ目は国内に243名（2018年12月現在）という認定

遺伝カウンセラーの研究員による貴重な企画で参加者が会場を埋めるほど集まり、二つ目は学術横断的なパネリストの登壇した企画で活気ある議論が交された。

文責：小濱 聖子（グローバルリーダーシップ研究所 特任リサーチフェロー）

2018年度若手女性研究者支援プロジェクト採択企画一覧

実施日、開催場所	企画者名（所属）、タイトル
2018年12月22日（土） お茶の水女子大学 大学本館3階306室	渡辺 基子（認定遺伝カウンセラー、グローバルリーダーシップ研究所） 「子どもの親になること ダウン症のある子どもの父親から～子育てに関するメッセージ～」
2019年2月16日（土） お茶の水女子大学 文教育学部1号館3階302室	巽 昌子（グローバルリーダーシップ研究所） 「「継承」の比較史 一伝えられるモノと文化一」

‘Women’s Leadership Education for Global Peace’（「平和のための女性リーダーシップ教育」）の報告（2018年10月25日）

2018年10月25日に、セント・メアリーズカレッジの**Alice Siqin Yang**先生をお招きし、研究会を開催した。アメリカにおける女性のリーダーシップ教育について、**セント・メアリーズカレッジで実施されてきたプログラムの内容**をご紹介いただきながらお話を伺い、参加者と意見交換を行った。

セント・メアリーズカレッジは、1844年に創立された**カトリック系リベラルアーツの私立の女子大学**で、女子教育に150年以上の歴史を有する全米で最も伝統ある女子大学の1校である。**インディアナ州ノートルダム**に位置し、近隣にUniversity of Notre DomeやHoly Cross Collegeなどもある。また、初めて女子学生を受け入れる神学の大学院プログラムを開講した大学でもあり、キリスト教の教えを基礎としたリベラルアーツ教育は全米で高い評価を得ている。

Alice先生が副センター長を務める**女性異文化間リーダーシップセンター（The Center for Women’s Intercultural Leadership）**では、「世界に変化をもたらす人材の育成」というカレッジの理念を実現するために、**文化の違いに対する研ぎ澄まされた意識**とリーダーシップの融合を重視している。グローバル化が進む現代社会に必要な、真の世界市民となるためには、異文化に対する鋭い感性が不可欠だからである。それには、グローバルな学びと、キャンパスを飛び出して異なる文化的背景を持つ人々との直接的な交流が欠かせない。そこでセンターでは多彩なプログラムを提供し、交換留学、インターンシップや短期留学などを通じて、**学生達をアジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、そしてラテンアメリカなど世界中に派遣**してきた。Alice先生は、カレッジの全ての留学プログラムを支援し、派遣される学生たち全員に指導を行なってい

る。また、異文化トレーニングワークショップと、**国際教育週間**におけるイベント等の開催を通じてキャンパスの国際化に尽力されている。

セント・メアリーズカレッジでは、カトリックの教えがリーダーシップ教育にも生かされており、リーダーシップは、**崇高で倫理的な精神**から生まれると捉えられている。リーダーが備えるべき高い倫理感、そして異文化への繊細な感受性と柔軟な対応力など、カレッジが重要視する**リーダーシップの資質は普遍的**であり、今日のグローバル社会の中で「差異」が生み出す多くの対立や、複雑化する様々な問題を解決するために、リーダーシップ教育を通じて女子大学が果たすべき役割について、多くの示唆に富んでいる。中国ご出身で、ご自身も留学生としてアメリカで学位を取得され、留学生教育に献身しておられるAlice先生のお姿に深い感銘を受けたセミナーであった。

文責：加納 なおみ（グローバルリーダーシップ研究所 研究員（基幹研究院人文科学系 講師））



セミナー当日の様子

2018年度後期授業を終えて (IGL関連)

● 「ファシリテーション」 (水9・10限)

本講座では、**企業から提示された課題をグループで解決する**プロジェクトに取り組み、その問題解決のプロセスを通して、**企画立案力およびプレゼンテーション・スキル**の向上を目的としています。本講座では、グループ力を最大化し、**一人では決して到達できないレベルの成果を出す**ために、多様な人々と協働するスキルについて教授しました。受講生は**8名**であり、感想として「グループワークをしていると、なかなか思うように意見が伝わらなかつたり、意見がまとまらなかつたりして大変な時もあるが、それ以上に、**お互いの特性を生かして助け合ったり、励ましあったり、時には鋭い意見をいったりすることで、結果的に一人が持っていたアイデアのタネを大きく育むことができた**。これがグループワークの醍醐味なのだと感じた」、「人をまとめ引っ張っていくのが上手い人だけがチームにおいてリーダー的な存在になれば良いと思っていて、自分はリーダーになるべき人間ではないと思っていたが、リーダーの姿は人それぞれ多様で、**チームメンバーあってこそそのチームワーク**だということや、リーダーは役割にすぎないということを学び、自分もリーダー的な立場になった時、そうでない時も、チームでいいものを生み出していこうという意識を得た」などを得ました。講義に対する満足度も高く(とても満足、満足の回答100%)、本講義を「今後とても役に立つ」、講義を通じて「**考え方や行動が変わった**」と回答した学生が多数みられました。

授業担当: 内藤 章江(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

● 「アカデミック女性リーダーへの道 (基礎編)」 (木5・6限)

この講座は、受講生が**研究者 (科学者)** という職業に求められる**倫理観**について学び、かつ現代社会における科学・技術に関する問題をいくつか取り上げてそれを議論することを通じて、自らの研究を振り返ることにより、社会という人間関係のなかで**自らの専門性を発揮する意義**について考えることを目的に、2015年度から開講しています。

今年度は3名(博士前期課程2名、博士後期課程1名)

の受講があり、小規模ながら活発で充実した議論や研究発表が行われました。受講者からは「ほかのコース、分野の方々の意見を吸収して、新たな観点から自分の研究を振り返ることができました。**自分の考え方、観点を大切に**してくださいという先生からの一言は今だけではなく、今後もこの言葉を心掛けて、研究を続けます」といった感想がありました。

授業担当: 小濱 聖子(グローバルリーダーシップ研究所 特任リサーチフェロー)

● 「アカデミック女性リーダーへの道 (実践編)」 (後期集中)

今年も大学院共通科目「**アカデミック女性リーダーへの道 (実践編)**」(1月29日、2月6日、2月12日、2月14日)を開催しました。この授業は、大学院生(博士前期・後期)を対象に、日本学術振興会(JSPS)特別研究員の申請準備や研究費獲得に役立つプレゼンテーションスキルに関する実践的な授業です。**1日目**は日本学術振興会(JSPS)特別研究員等の審査委員経験のある本学教員や本学等に在籍する日本学術振興会(JSPS)特別研究員から経験談を伺いました。各先生、研究員の講演の後半では、出席者から多くの質問が出て、活発な質疑応答となりました。

2日目は事前に作成した特別研究員応募書類を基に、参加者に対する個別指導を行いました。**3日目、4日目は池田まさみ十文字女子学園教授**が担当し、プレゼンテーションスキルに関する講義と参加者によるショートプレゼンの実践、講師のフィードバックが行われました。



新井由紀夫先生の講演

授業担当: 大木 直子(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

子育てサロンの報告 (2018年10月24日)

2010年度より開催し、2018年10月24日に第32回を迎えた「子育てサロン」では、本学の**須藤紀子准教授**(生活科学部食物栄養学科、基幹研究院自然科学系)に「**災害大国日本で被災生活を生き抜くための備え**」というテーマで講話をしてもらいました。

本学の**災害時の備蓄状況や、非常食を使った生活の実験**などが紹介され、参加者からは、「子どもや高齢者を守るために、まず自分自身が災害に備える自衛を行なわねばならないと改めて気づきました」「子どもがいる状況に限定して災害時のお話をきく機会はなかったので勉強になりました。普段から使っていない物は、災害時には使わない(使えない)という事に共感しました。

普段からとりくもうと思います」などの感想がありました。

文責: 小濱 聖子(グローバルリーダーシップ研究所 特任リサーチフェロー)



レクチャーの様子

第13回国際日本学コンソーシアムの開催報告 (2018年12月10日・11日)

2018年12月10日(月)・11日(火)に比較日本学教育研究部門が主催する第13回国際日本学コンソーシアムが開催されました。

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、**国際的・学際的なジョイントゼミ**を行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。今回は「いのち・自然・社会」をテーマに据えました。近年、虐待や災害など、「いのち」について考えさせられることが多くあります。「いのち」とそれを取り巻く「自然」、そしてその中で人々が作り上げてきた「社会」について考えることは、人文学という学問の根幹をなす部分でもあります。これらのことから、「いのち」「自然」「社会」について多角的に考え直し、新たな国際日本学のあり方を考える機会にするコンソーシアムが企画されました。

はじめに、三浦徹理事・副学長から開会の挨拶がありました。一日目午後の日本文学部会では、松岡智之氏(本学)の司会のもと、**ギュモ・オリアンヌ氏(パリ・ディドロ大学)**「『伊勢物語』における笑い:人物と語り手との関係」、**馬如慧氏(北京外国語大学)**「『源氏物語』における「中の品」女性論——「葎の門」を手掛かりに」、**トムシュー・アダム氏(カレル大学)**「中古と中世文学における竜宮訪問のモチーフの変遷」、**胡睿慈氏(台湾大学)**「『空華集』の絶句における「茶」の表現——空間の変化をめぐって——」、**朱秋而氏(台湾大学)**「幕末詩人館柳湾詩における自然描写—中国詩との比較を通して—」、**范淑文氏(台湾大学)**「作家に語られた震災——多和田葉子を中心に」の研究発表がありました。二日目午前の日本文化部会では、董航氏(本学)の司会のもと、**馬場貴和子氏(本学)**「近世箱館の都市社会」、**鈴木聖子氏(パリ・ディドロ大学)**「言葉と歌と息のあいだにいのちを描く:小沢昭一『日本の放浪芸』における声の文化」、**保田那々子氏(本学)**「童装束としての汗衫の成立」、**ダヴィッド・ラブス氏(カレル大学)**「幕末時代における技術と公論—横井小楠を中心に〈命・自然・社会〉」、**宋金文氏(北京外国語大学北京日本学研究中心)**「災害復興過程におけるソーシャルキャピタル(=SC)の役割」

の研究発表がありました。続いて午後の日本語学部会では、佐藤文氏(本学)の司会のもと、**池田來未氏(本学)**「複合動詞『〜トオス』の史の変遷—文法化に着目して—」、**朴美賢氏(釜山大学校)**「釈日本紀における韓国系固有名詞の声点について」、**日本語教育学部会**ではサクンクルー・カンスイニー氏(本学)の司会のもと、**奥西麻衣子氏(本学)**「普通体基調会話における日本語学習者のアップシフトに関する一考察」、**ジェシカ・レウン氏(ニューサウスウェールズ大学)**「日本語学習者のメール文に見られる『断り』」、**トムソン木下千尋氏(ニューサウスウェールズ大学)**「I-JASデータの社会文化的考察」の研究発表がありました。最後に全体会を開き、フロアとの議論によって各部会の理解を深めました。

両日とも学内から多くご参加いただき、濃密な2日間となりました。

文責: 加藤 絵里子(グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント)、芹澤 良子(同)



会場の様子 (1)



会場の様子 (2)

トピックスとしての研究所 (所長あいさつ)

グローバルリーダーシップ研究所長 小林 誠

グローバルリーダーシップ研究所の所長に2018年4月に就任し、ほぼ1年が過ぎようとしている。リーダーシップについての研究、教育、事業を行う場所なのだが、やるべき仕事にメンバーの全員が相当な努力をされていて、あと進めるべきはマネージメントの工夫だと思うんだけど、これはやっかいなタスクだ。お茶大教員でマネージメントに精通した人などほとんど皆無だろう。

また、研究所の所与の任務として「グローバル女性リー

ダー」の育成があるが、このコンセプトも一筋縄ではいかない。グローバルなリーダーは、ローカルなリーダーとどう違うのか。共通する点はあるのか。男性リーダーと女性リーダーはどこが同じでどこが違うのか。十分に議論の余地のある論点である。

研究所は研究の拠点でなければならないが、出会いや語らいの場でもある。学内や学外の多くの人を訪れ、みんなで硬い議論や柔らかい茶話で盛り上がるようなトピックスのものでありたい。

【発行元】 国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 人間文化創成科学研究科棟506室

Tel/Fax: 03(5978)5520

E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>